

## ブロック分科会（低学年ブロック）まとめ

### 討議の柱1

論理的思考力を高めるために、問題解決型学習を基本とした授業づくりの工夫は、どうあるべきか。

#### 《提言内容》

- ◎教材教具の工夫により、実際に子どもが操作をしながら考えることで、論理的思考を高めることができたのではないか。
- ◎実物を見せ、実際に操作することにより、見通しを持って課題に取り組むことができた。
- ◎教科書にはない問題に取り組ませたい場合、どのように扱っていけばよいか。

#### 実践の紹介

3年「あまりのあるわり算」  
江別市立対雁小学校 宮本 由紀子 教諭  
2年「三角形と四角形」  
千歳市立北陽小学校 藤本 重遠 教諭  
1年「3つの数のたし算、ひき算」  
北広島市立大曲小学校 金野 光 教諭

#### 討議の内容

- ・ブロックは、実際に触ったり動かしたりすることで、身に付けたり、思考を広げたりするのに有効であると考えられるので、低学年のうちには活用することも大切ではないか。
- ・教材教具の工夫は、子どもの思考を広げるために有効であった。
- ・図形において、定義をもとに考える問題設定をすることによって、論理的に考えることにつながっていた。
- ・「あまりのあるわり算」のあまりを適切に処理する問題で、あまりを切り上げる場合と切り捨てる場合の両方を1時間で扱うことは、2つを比べることができ、違いに気付きやすくなるという効果があった。しかし支援が必要な子の混乱を招いたり、学習内容を定着させるための十分な時間を確保できないという課題もあると考えられる。

### 討議の柱2

論理的思考力を高めるために、言語活動の充実をはかる算数的表現の指導及び集団検討はどうあるべきか。

#### 《提言内容》

- ◎伝え合う場面では、順序立てて話すことにより、論理的思考力を高めることができていた。
- ◎ペア交流では、お互いの考えを伝え合うだけでなく、2人で相談をしたり、2人で全体に発表する活動を行うことで、言語活動の充実が図られ、話す力をつけるためには有効であった。
- ◎説明をする際に算数用語に言い直すことによって、算数的表現の洗練が図られた。
- ◎ペア交流は、どの程度授業で行うのが有効か。
- ◎教材の工夫により、式と絵をつなげて説明することができ、言語活動の充実が図られた。
- ◎図のかき方の指導はどこまで行うべきか。

#### 討議の内容

- ・ペア交流は、行う目的を明確にした上で、目的に応じた場面で行うべき。
- ・子ども同士の交流の中で考えを引き出したときは、ペア交流に限らず、周囲の子とも交流するなど、交流の幅を広げることも有効ではないか。
- ・お散歩交流等のように、授業の中でお互いのノートを見合う場面を設けることで、自分の考えに自信が持てたり、ノートの書き方のヒントを得たりすることができるのではないか。
- ・自分の考えを説明するときには、「理由を必ず言わせる」「相手にも分かる説明を心がけさせる」ことにより、根拠を明確にした説明ができるようになる。これは、論理的思考力を高めるためには有効である。
- ・説明させる際、様々な言葉で言い換えることは、定義を理解する上で大切である。
- ・図は、自分の考えを整理したり、周りの人に自分の考えを伝えるためのツールとして、使い方を知っていることが大切。使い方が分かるように指導ができていれば、あとは子どもが必要な時に使えればよいのではないか。

(文責 松井 結 )

